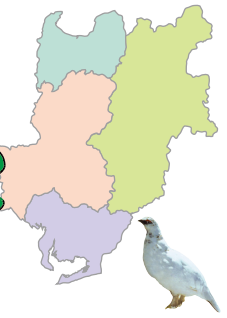




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/



国際森林年のロゴマークについて説明する城土局長



2011・国際森林年

森林・林業への関心をもっと 県との連携により国際森林年をPR

(P2~4に関連記事)

主 な 項 目	○ 国際森林年記念講演会開催	P2
	○ 養成研修「森林官養成科」の実施	P4
	○ 宮城からのたより	P4~6
	○ 風景紀行	P7

森林鳥獣や病害虫による 森林被害対策について 考える講演会を開催

「企画調整室」十一月二十二日、国際森林年を記念して、局大會議室において「森林鳥獣や病害虫の生態、被害状況等への理解を深める」をテーマに講演会を行いました。

深刻な森林鳥獣や病害虫による森林被害の対策を考える講演会として三名の専門家を招き市民や林業関係者等約百二十名の聴講者がありました。

演題及び講師は、(独) 森林総合研究所野生動物研究領域長の小泉透氏から



講演会の様子

「ニホンジカ・クマの生態について」、信州大学農学部准教授の竹田謙一氏から「長野県内のニホンジカの被害状況やその対策と課題」、(独) 森林総合研究所研究コーディネータの牧野俊一氏から「カシノナガキクイムシの生態や被害対策について」を講演いただきました。

先ず小泉氏からは、ニホンジカの生態として食物メニューが千種類を超えることや、高い妊娠率などから千頭のシカが十五年後には一万頭を超えるとの指摘や、クマは餌の豊凶によって繁殖率が大きく変化するなどの発表がありました。

続いて、竹田氏からは長野県は他県に類を見ない野生鳥獣による農作物被害の発生が多いこと、ニホンジカの広域捕獲の一例として捕獲専門のプロ集団を目指す上伊那捕獲隊の紹介や国有林での新たな展開の期待として、データに基づいたモニタリングや情報の共有、森林施業管理と野生鳥獣管理はセットで考えるべきなどといった提言がありました。

牧野氏からはナラ枯れは八十年代以降に激増し、繁殖に好適な太い木ほど枯れやすいこと、ナラ枯れの発生を予測する研究の現状、防除方法として集合フェロモンを利用したおとり木トラップ法などの紹介がありました。

中部森林管理局のニホンジカ被害対策の事例発表ではGPS発信機使用のシカの行動調査や高山生態系への影響、シカ対策被害について紹介した南アルプス食



意見交換会に臨む講師と宿利計画部長、飯干森林整備部長

害対策協議会作成パンフレットの紹介や笠松式くくりワナの設置実演などが行われました。

講演終了後の意見交換の場では、シカの夜間捕獲の有効性、シカを駆除した際の処理方法の現状と改善すべき点、カシノナガキクイムシ防除のための樹幹注入用殺菌剤の単価や薬剤の持続期間など多くの意見質問が出されました。

今回の講演会を通じ、ニホンジカの被害対策や、カシノナガキクイムシ被害対策への関心が高いことを感じ、中部森林管理局としまして今後とも森林鳥獣、病害虫対策について国民と双方向で情報交換を行いつつ取組を進めていきたいと考えています。

みんなが支える 森林づくり感謝デー 二〇一一年

「企画調整室・指導普及課・販売課」

十一月二十三日、長野県上田市において森林や木材利用への関心を高めることを目的に「みんなで支える森林づくり感謝デー二〇一一年」(主催：長野県、共催：中部森林管理局)が行われました。

当日は三部構成で行われたイベントの第一として「長野県児童・生徒木工工作コンクール」(主催：長野県木材青年団体連合会)が行われ、中部森林管理局長賞を受賞した小学一年生の金井快翔(かないかいと)さん(作品名「もりハウス」)に局長から賞状の授与が行われました。



中部森林管理局長賞の受賞作品の前で
(受賞者と城土局長)

続いて行われた「長野県森林大使任命式」では阿部守一長野県知事より英国出身で信濃町在住の作家CWニコル氏に長野県初の森林大使の任命が行われました。



長野県森林大使に任命されたCWニコルさんと阿部知事

イベントの最後には「信州の森林づくり応援トークショー」が行われ、パネラーの長野県知事からは「長野県は森林県であるのと同時に観光県である。それは自然の美しさがあってこそで林業は暮らしに密接に関わっている。」ことや、CWニコル氏からは「日本の森林は木の種類も多く、癒される。新しい学校や家を建てるときは日本の材木で作ってください。」など、山仕事創造者代表理事の香山由人氏からは「間伐

の必要性と森を手入れることで結果人が森の中に入りやすくなっていく。」、城土局長からも「国有林には皆さんの身近に自然休養林があります。国際森林年は残りあと一ヶ月ですが、森を歩くというテーマの精神は来年以降も変わらないので、森を歩く実践をお願いします。」などの話がありました。

「木づかい推進月間」の取組

【販売課】毎年十月は「木づかい推進月間」として木材利用の意義を広め、利用の拡大につなげるための集中活動が展開されました。

十月四日には岐阜県木材利用推進協会（後藤直剛会長）と名古屋事務所が連携し、木材利用の推進に関する要望活動を行い、岐阜県古田知事をはじめ、県議会議員、林政部、教育委員会に対して、「木材の利用推進に関する要望書」を手渡し、公共建築物の木造化、公共工事における木材利用促進、県産材を使用した木造住宅の建設促進等について要望し、理解と支援をお願いし、翌日の五日には、愛知県木材利用推進協議会に同行して、愛知県知事、県議会議員、中部地

方整備局、東海農政局に木材利用推進に関する要望活動を行いました。



岐阜県知事への要望活動（名古屋事務所）

また、長野県が定める「ふるさとの森林づくり県民運動推進強調月間」と合わせ、民国連携による森林づくりへの参加や木材利用への理解を深めていただくことなどを目的に、長野林政協議会活動の一環として、十月二十八日から十一月六日までの間、ステーションビルMIDORI長野店並びに松本店において、森林の働きや役割、地域材利用や国有林の取組についてパンフレットやパネル、木工品などを展示しPRしました。三十日には、木のおもちゃ（ひのき湯玉プール・ブロックなど）・ウッドイブ笑いや木材

反発力実験などを通じて木に直接触れて、木の香やぬくもりなどを体感してもらい、森林の大切さ・地域材の利用などについて普及啓発活動を行いました。今後においても、木づかい推進月間などについては、民国連携によるより効果的な活動の推進を引き続き実施していくこととしております。



木のおもちゃで木のぬくもりを体感

「列状間伐の考え方と実践」についての講演会

【販売課】十一月二十九日、松本市あがたの森文化会館において、職員並びに県職員・林業事業者等の関係者を対象に、「列状間伐の考え方と実践」と題して、同名で著書を出版している信州大学農学部森林科学科の植木達人教授を招いて講演会を開催しました。



講演する植木教授

当日は、総勢百三十二名の参加のもと、高い知見を有する植木教授から、実践事例を分析したデータ等から、そのメリット・デメリットについての話をいただきました。

今後、当局が積極的に取り組んでいる路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率作業システムの普及・推進をする上で、安全面も含め有効な施策として、民国連携して、初回間伐、場合によっては二回目の間伐林分をも対象に取り組んで行くことを改めて認識する機会となりました。

国有林の顔として活躍を

〔養成研修〕森林官養成科の実施

〔総務課〕平成二十三年十一月八日から十一月十七日までの十日間において、次年度より森林官へ任用予定である採用四年目のⅡ種採用職員四名、採用九年目のⅢ種採用職員三名合計七名に対する森林官養成研修が実施されました。

本研修は現場第一線での森林官業務の特徴に即したカリキュラムにより、森林管理、事業の実行、第三者対応等の適切な状況判断及び司法警察員としての資質の確保を習得させるものであります。

カリキュラムでは、局関係各課からの現場業務と実態に即した講義は基より、先輩森林官からは、具体的な業務の説明と地域との交流、署の窓口としての重要性等について、外部講師として国有林アドバイザーからは、植物観察等を通じて、山の仕事を行うには森林に興味を持ち森林が好きになる者でなければならぬといった心構えを始めとした講義を受け、研修生は森林官業務の重要性を新たにしました。

最終日の修了式には、局幹部出席のもと、局長から一人一人に修了証書が授与されるとともに、森林林業再生プランを始めとした森林林業を取り巻く情勢の変化と国有林が重要な時期にあることの認識、今まで培った森林・林業の専門的な知識や技術に自信と誇りを持ち、更なる



国有林の顔として活躍が期待される研修生（後列）

自己研鑽に努め、国有林の顔として関係市町村や地域住民と連携しつつ大きく飛躍してほしいとの訓示があり十日間の研修を終了いたしました。

宮城からのたより

〔海岸林復旧対策事務所より〕

東日本大震災の復旧対策に当たり、宮城北部森林管理署海岸防災林復旧対策事務所へ応援派遣されている宮下崇さんから、現地での活動の様子や近況を伝える便りが数回届きました。そのうち、十一月三十日に届いたものを掲載します。



応急対策を行う前の様子

〔宮下崇〕お疲れさまです。十一月も末になり、こちらでも初雪が降りました。

私が主に担当する気仙沼市は岩手県境の一番北側に位置しており、湾が深く海岸はリアス式海岸地形となっているため、津波の高さが10メートルを超え多大な被害が出ました。

今回は陸中海岸国立公園内、「潮吹き岩」で有名な観光スポットの南側に位置する岩井崎地区です。ちなみに周囲の被害は甚大ですがここは今でも潮吹きが見えるそうです。（私は見る事ができませんでした。）

以前は海沿いに墓地があり背後に水産工場、高校などがある活気のある地区